

第4日（3月7日）

8 石原孝之 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求めるもの 市長、教育長

1 子どもたちの運動能力低下を防ぐために

全国的に顕著に現れている小中学生の運動能力の低下について

スポーツ庁の調査では、新型コロナウイルス感染拡大で「外遊び」やスポーツの機会が減った影響なのか子どもの体力が全国的に大きく低下しているそうです。テレビやスマホやゲームなどのスクリーンタイムと呼ばれる時間が増えたせいも肥満傾向も顕著に現れている実情を踏まえて以下の質問を伺います。

ア 焼津市内の小中学生の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果からその分析はどうであったか伺います。自治体としての特徴や問題点を分析していますか
イ 課題解決に向けたコロナ禍でも子どもたちの運動を促す本市の取組があれば伺います。

ウ 運動能力の低下や生活習慣の悪化など保護者への情報提供と実践に関して伺います。また保護者を巻き込んだ施策を検討してはどうか

エ スポーツ庁から発信されている『コロナ禍でも取組の継続・充実を図り、運動好きの子どもたちを増やししながら体力向上に成果を挙げている学校の取組事例』という資料内容から市内で取り組めることがあれば伺います

2 出合い・再会を起爆剤にした新しい施策を！

移住定住を促進する施策について

内閣府の政策の地方創生は、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的としています。このため、U I Jターンによる地方への移住・定住を促進する取組、関係人口など地域とつながるひとや企業を増やす取組、結婚・出産・子育ての支援、Society5.0等新しい時代の流れを力にする取組、女性が活躍できる地域社会の実現に向けた取組など様々な取組を進めています。また、今般の新型コロナウイルス感染症に伴うテレワークなどの経験による、国民の皆様の意識・行動等の変化を踏まえながら、感染症の克服と経済活性化の両立の視点を取り入れながら取組を進めていきます。と定義されております。そこで以下の質問を伺います

ア 本市では、大学等の進学を機に転出する若者が多く、その傾向は続くと推測しますが、どのような移住定住対策、またU I Jターンへの施策がなされているか伺います

イ 移住定住対策の取組として、はたちの集いとは別の年代で、地元住民と市外転出者が集い、節目を祝うイベントを行ってはどうか

ウ 婚活サポート事業について

コロナ禍になりリアルに集まったイベントはあまり開催できていない現状だと思いますが、出合いや再会を創る新しい取組などあれば伺います

3 大きな転換期！18歳から新成人になることから想定される課題

18歳が新成人になることから想定される影響と課題について

2016年に選挙権が18歳になったこと、また世界中をみても多くの国で18歳から成年年齢にしています。2022年4月1日、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられる。これはおよそ140年ぶりに「大人」の定義が変わるといふ大きな転換期であります。18歳で成年年齢になるということは、18歳、19歳の若者の自己決定権を尊重し、積極的な社会参加を促す一助になると考えられています。いずれも18歳以上を大人として扱うことが前提となるため、20歳にならなければできなかったことができるようになることがメリットに思える反面、社会的責任や自立性を18歳から求めていくこととなります。そこで以下の質問を伺います。

ア 日本は安全な国と言われておりますが、消費者トラブルをはじめ社会生活において様々なリスクがあると考えますが、そんなリスクに関する知識の共有という点において、本市として行っている周知・啓発活動などの取組を伺う

イ 義務教育課程における、「法の教育」や「模擬裁判」などの取組の拡充が欠かせないと感じますがどうでしょうか

9 青島悦世 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求めるもの 市長、教育長

1 学校教育現場の充実を

静岡教組志太支部 第2班が昨年11月5日大井川庁舎にて「焼津市教育長と語る会」を開催されています。さらに12月15日焼津市役所本庁舎にて「焼津市長と語る会」が開催されています。テーマは、「誰もが大切にされる学校づくりを目指して」です。参考にしながら伺います。

ア 児童生徒用の机・椅子について

計画的に更新を図ってきて令和4年度で完了することになっておりますが、パソコンを使い授業を行うことが増えていることから、現場から「机が狭い」との声があります。今後の更新について対処できるか考えを伺います

イ 学校のWi-Fi環境について

学校のWi-Fi環境について、普通教室、理科室、技術室は整備されていると聞いているが、その他の特別教室や体育館のWi-Fi環境の整備についてどう考えるか伺います

ウ 外国籍の子どもの就学準備について

外国籍の子どもが、早く日本語や学校生活に慣れるため、就学準備としてどのような取組をしているか伺います

エ 共同学校事務室の充実について

(ア) 専用の部屋で充実した設備を望む声に対応できるか。パソコンを更新していただきたい声があります。また、業務の効率的な執行に重要な設備としてパソコン、プリンター、電話、FAX、冷暖房の実態はどうか伺います

(イ) 共同学校事務室の運営に関する予算について、どのようになっているか伺い

ます

2 陣痛タクシーへの取り組みを

子どもを産みやすいまち「やいづ」の更なる充実を。

陣痛タクシー（マタニティタクシー）とは、事前にお迎え場所やかかりつけ医療機関、出産予定日などの情報を登録いただくことで、急な陣痛などいざという時に素早く確実に病院へと輸送するサービスです。事前登録が必要で、住所 お名前 電話番号 かかりつけ病院（産科） 予定日 その他ご要望を登録します。

陣痛タクシー依頼の流れ

- ・かかりつけ病院に電話
- ・「陣痛タクシー」をお願いします。
- ・運転士が迎えにあがります
- ・登録の病院までお送りします。このような流れです。

ネット上に投稿されている件ですが、県立総合病院から陣痛タクシーを探すように言われて探すのに苦労しました…。しかし焼津でも特別にと藤枝市の志太交通さんが受け入れしてくれました。夫は自宅から片道40分かかる場所で勤務していて、陣痛のときすぐ来られるかは約束できません。このような内容です。私のところにも同じような内容の話がありました。そこで、現代の社会、家族構成を考えますと、取り組むべき事案と思い質問します。

民間事業者によるマタニティタクシーの交渉で早期に実現していただきたい。
対応、考えを伺う